

「令和4年度第4回 沖縄県がん診療連携協議会〈幹事会〉」 資料

## 【沖縄県】学校におけるがん教育の取組

### 1 がん教育の目標

(1) がんについて正しく理解することができるようにする。

がんが身近な病気であることや、がんの予防、早期発見・検診等について関心を持ち、正しい知識を身に付け、適切に対処できる実践力を育成する。また、がんを通じて様々な病気についても理解を深め、健康の保持増進に資する。

(2) 健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする。

がんについて学ぶことや、がんと向き合う人々と触れ合うことを通じて、自他の健康と命の大切さに気付き、自己の在り方や生き方を考え、共に生きる社会づくりを目指す態度を育成する。

### 2 学習指導要領及び学習指導要領解説におけるがん教育について

(1) 小学校：第6学年 教科：体育(保健領域)

【新学習指導要領(R2より全面实施)】

(3) 病気の予防 (エ)喫煙、飲酒、薬物乱用と健康

ア ～(中略) また、喫煙を長い間続けるとがんや心臓病などの病気にかかりやすくなるなどの影響があることについても触れるようにする

(2) 中学校：第2学年 教科：保健体育(保健分野)

【新学習指導要領(R3より全面实施)】

(1) 健康な生活と疾病の予防

ウ 生活習慣病などの予防

がんの予防

がんは、異常な制帽であるがん細胞が増殖する疾病であり、(中略)

また、がんの予防には、生活習慣の予防と同様に、適切な生活習慣を身につけさせることが有効であることを理解できるようにする。

(3) 高等学校 教科：保健体育(科目保健)

【新学習指導要領(R4より全面实施)】

(1) 現代社会と健康

(ア) 国民の健康課題

国民の健康課題について、(～中略～)、がん、生活習慣病、感染症、精神疾患及び少子高齢化における健康課題等(～中略～)

(ウ) 生活習慣病などの予防と回復

がん、脳血管疾患、虚血性心疾患、高血圧症、糖尿病などを適宜取り上げ、(～中略～)その際、がんについては、肺がん、大腸がん、胃がん、など様々な種類があり、(～中略～)がんの回復においては、手

術療法、化学療法(抗がん剤など)、放射線療法などの治療法があること、(～中略～)適時触れるようにする。

また、(～中略～)がん検診の普及、正しい情報などの社会的対策が必要であることを理解できるようにする。

### 3 令和3年文部科学省委託事業がん教育総合支援事業より

#### 【今後の課題及びその取組の方向性】

#### (1) カリキュラム・マネジメントによるがん教育の推進

がん教育の目標を達成するためには、がんに対する正しい知識を保健体育の保健学習で身に付けさせ関連教科、特活等を通じて健康と命の大切さやがん患者への正しい理解についての学習を実践していくことが重要である。

体育科・保健体育の学習を中核に他の教科と連携した指導(カリキュラム・マネジメントの視点)が、引き続きの課題となる。

#### (2) 外部講師の活用について

ア 外部講師養成プログラム策定委員会が策定した、プログラムにより外部講師養成研修会を県教育委員会が主体となり実施した。次年度からの外部講師養成研修会は外部団体が引き継ぎ実施する方向で調整中である。外部団体、県教育委員会、県保健医療部、県医師会等関連団体が協力・連携し、実施方法や外部講師の授業後のフォローアップ体制を構築していく事が課題である。

イ がん教育の外部講師の引き受け手が少なく、継続した養成が必要であるが、財源の確保が難しく、次年度においても県独自の財源を確保できていない。今後の課題である。

#### (3) 研修会等の充実と普及・推進

ア がん教育実施状況調査が令和3年度は実施されたことから、調査結果等を活用したがん教育研修の充実が課題である。

イ コロナ禍のためモデル校において参加者を限定した検証授業を実施した。そのため、広く教材等を周知することができなかった。今後、管理職研修会や教諭向け研修会等において、教材の活用について周知し、がん教育を推進していくことが課題である。

### 4 今年度の取組

#### (1) 管理職等向け周知

県立高校校長会、県立高校教頭会、小中校長会、指導主事研修会における周知

#### (2) 保健教育担当者向け研修会の実施

県総合教育センターとの連携による研修会の開催予定

##### ① 夏期短期研修

ア 小学校体育講座 8月22日(月)

イ 中・高体育講座 8月24日(水)

##### ② 経年研修

ウ 県立高等学校初任者研修・中堅研修 7月28日(水)

エ 県立高等学校2年研修・5年研修 8月19日(木)

(3) 令和3年度作成指導教材の県立総合教育センターHPへの掲載及び周知

【掲載データ】(令和4年4月)

- |                       |                      |
|-----------------------|----------------------|
| ① R3 小学校モデル校指導案       | ② R3 小学校モデル校スライド     |
| ③ R3 小学校モデル校ワークシート    | ④ R3 中学校モデル校指導案      |
| ⑤ R3 中学校モデル校パワーポイント   | ⑥ R3 中学校モデル校ワークシート   |
| ⑦ R3 高等学校モデル校指導案      | ⑧ R3 高等学校モデル校パワーポイント |
| ⑨ R3 高等学校モデル校ワークシート   |                      |
| ⑩ 学校におけるがん教育外部講師連携シート |                      |

(4) がん教育外部講師養成研修

【関係者へ依頼文書発出】(令和4年3月)

- ① がん教育外部講師養成プログラム内容について  
県教育委員会が令和2・3年度策定したプログラム内容を参考に組み立てる。
- ② 他関係団体との連携  
一般社団法人全国がん患者団体連合会やがん教育に先進的に取り組んでいる関係団体等と連携頂し、研修会を開催する。
- ③ 沖縄県教育庁保健体育課との連携  
養成プログラム内容や開催方法、時期等について沖縄県教育庁保健体育課と連携する。
- ④ 養成研修会に係る費用等について  
沖縄県教育庁の経費負担は「無し」とする。
- ⑤ 養成研修期間  
令和4年度から当面の期間

## 5 実施内容

【教材普及・啓発】

- (1) 研修会名：令和4年度 がん教育教材作成研修会
- (2) 趣 旨：文部科学省及び県推奨がん教育教材を参考とした教材の作成
- (3) 内 容：1 開会 2 日程説明 3 講師・実践報告者紹介  
4 講義：学校におけるがん教育について  
講師：奥間 あさみ、前城 優子  
5 実践報告 報告者：(小)平良 理奈(中)後島 明子、笠原 健市  
(高)本村 優、友寄 雅人  
6 PP教材作成・教材の共有 7 アンケート記入
- (4) 期日・場所：  
第1回：令和4年7月28日(木)10:00～12:00 県立総合教育センター  
第2回：令和4年8月19日(金)10:00～12:00 県立総合教育センター  
第3回：令和4年8月22日(月)14:30～16:30 県立総合教育センター

第4回：令和4年8月24日(水)14:30～16:30 県立総合教育センター

(5) 参加者：

第1回：県立学校保健体育科教諭初任者・中堅教諭等 (9名)

第2回：県立学校保健体育科教諭2年目・5年目教諭等 (4名)

第3回：夏季短期研修(小学校教諭) (10名)

第4回：夏季短期研修(中高保健体育教諭) (6名)

計 29名

(6) 研修評価・課題(アンケート等より)

- ① 講義について「がん教育の必要性や資料がどこにあるか教材のことについて知れて本当によかった。」「これまで詳しく扱ってこなかった单元だけど、時代に合わせてしっかり生徒に伝えていくべき項目だと感じた。」等の感想があった。講義内容について「大変良い・とてもわかりやすかった」との評価が90%。
- ② 実践報告について「実践発表を聞き、感動しました。次年度、是非、活用したい。」「生徒や学校の実態に合わせてどう授業を組み立てて行くのかというのが何よりもまず大事であると改めて感じた(生徒理解)。」「実践発表の例はとても参考になりました。養護教諭と連携しながら授業を作っていけるとよいのかなと感じた。」実践報告について「大変良い・とてもわかりやすかった」との評価が90%。
- ③ 教材作成について「積極的に教材作りに取り組んでいる本県の教育機関、その教材はとても素晴らしいもので、ぜひ活用したい。」「文科省や教育センターからの資料も使用されており信憑性もあって心強く感じた。」等がん教育への意欲に繋がる内容であったと捉える事ができる。
- ④ 大人数を対象とした講義のみの研修では、実際の教材に触れてみる事が難しい。今回、県総合教育センターと協力し、一人1台端末を用い、実際にPP教材を作成することができ、推奨教材の普及・啓発に繋がった
- ⑤ 次年度も教育センターと連携し研修会を実施する予定であるが、小学校の研修内容については検討する必要がある。小学校学習指導要領解説においてはがんについて「触れるようにする」とあることから、他の单元との研修バランスを含め、調整が必要である。

【外部講師養成研修】

(1) 研修会名：令和4年度がん教育外部講師のためのオンライン研修会 in Okinawa

共催：琉球大学医学部保健学科 成人・がん看護学

沖縄がん教育サポートセンター

協力：沖縄県教育庁保健体育課、NPO 法人がんサポートかごしま

(2) 趣 旨：

国はがん対策基本推進計画において、がん教育を効果的なものとするため、医師やがん患者・経験者等の外部講師を活用することを推進している。

令和3年度がん教育実施状況調査において、外部講師を活用したがん教育の実施率は全国平均も8.9%と低いが、沖縄県はさらに低く2.9%であり本県において外部講師の養成が急務となっている。

そこで、本研修会を教育委員会としてサポートし、学校で活用できる「がん教育外部講師」を養成することとした。

(3) 内 容 (作成：琉球大学医学部保健学科成人・がん看護学分野 教授 照屋典子)

# がん教育外部講師のための オンライン研修会 in OKINAWA

## ◆がん教育とは？

健康教育の一環として、「がんについての正しい理解、がんと向き合う人々への共感的理解を深め、自他の健康と命の大切さについて学ぶ教育」です。わが国のがん対策でも、学校や社会における「がん教育」を推進しています。

## ◆がん教育の外部講師とは？ 沖縄でも外部講師による授業は始まっているの？

医師やがん経験者等の外部講師から、がんについて学ぶことは、児童・生徒にとって、がんやがんと向き合う人々への理解を深めるために、有意義で効果的とされています。文部科学省でも、学校の教員と外部講師が連携してがん教育を進めていくことを推奨しています。沖縄県でも外部講師を活用したがん教育を行う学校が増えてきていますが、外部講師がまだ少ない現状です。

## ◆外部講師(がん経験者)は、何を、どのように話せばいいの？

今回の研修では、学校におけるがん教育で、がん経験者が自身の体験を伝える際、「何を」「どのように伝えればいいのか？」という問いにお答えできるような講義内容やワークショップを盛り込んでいます。がん教育に関心のあるがん経験者の方は、ぜひご参加ください！

日 時：2022年11月26日(土) 12:30開場(12:50開始)～17:00終了  
11月27日(日) 9:30開場(9:50開始)～17:00終了

受講方法：ZOOMによるオンライン研修

受講対象：沖縄県内在住のがん患者・がん経験者(定員30名)

(\*参加にあたっては2日間参加可能で、ZOOMによるオンライン受講が可能な方)

内 容：講義、ワークショップ(裏面プログラム参照)

申込み：右記QRコードにアクセスの上、お申込みいただくか、下記サイトからお申込みください。

<https://forms.gle/n8D9c4p5m1qAoUog7>

申込期限：2022年11月15日(火)

共 催：琉球大学医学部保健学科 成人・がん看護学  
沖縄がん教育サポートセンター

協 力：沖縄県教育庁保健体育課・NPO法人がんサポートかごしま

問合せ先：琉球大学医学部保健学科 成人・がん看護学 照屋

☎/FAX 098-895-1272 [teruya@med.u-ryukyu.ac.jp](mailto:teruya@med.u-ryukyu.ac.jp)





## がん教育外部講師のためのオンライン研修会 in OKINAWA

【1日目】2022年 11月26日(土) 12:30開場 12:50開始 17:00終了

時間	内容	担当者
12:30~12:50 12:50~13:00 13:00~13:10	受付 (ZOOM 入室) オリエンテーション 開会の挨拶	琉球大学医学部保健学科 照屋 典子  琉球大学病院がんセンター 増田 昌人 沖縄がん教育サポートセンター 徳元 亮太
13:10~13:25	参加者自己紹介	
13:30~14:30	講義① 学校におけるがん教育 外部講師に知ってもらいたい基本的なこと	聖心女子大学 植田 誠治
14:30~14:50 14:50~15:00	講義② 沖縄県におけるがん教育の取り組み (休憩)	沖縄県教育庁 奥間 あさみ
15:00~16:30	講義③ こんな風にかん教育やっています ~がん経験者の立場から~ 講師： 一般社団法人全国がん患者団体連合会 理事長 天野 慎介 NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会 理事 吉森 公恵 NPO法人がんサポートかごしま 副理事長 野田真記子 沖縄がん教育サポートセンター 代表 徳元 亮太 (令和3年度がん教育総合支援事業 がん教育外部講師実践者) 新垣 志乃	
16:30~16:50 16:50~17:00	講師の先生方へ外部講師についての疑問や不安を聞いてみよう! 明日のスケジュール説明・まとめ	

【2日目】2022年 11月27日(日) 9:30開場 9:50開始 17:00終了

時間	内容	担当者
9:30~9:50 9:50~10:00	受付 (ZOOM 入室) 開会のあいさつ・オリエンテーション	琉球大学医学部 照屋 典子
10:00~10:50	講義④ がんの知識をどんな言葉で 伝えればわかりやすいか (誤解を与えないか)	国立がん研究センター がん対策研究所 事業統括 若尾 文彦
10:50~10:55	質疑応答	
10:55~11:55 11:55~12:00	講義⑤ がん教育の実際 外部講師に求められるもの 質疑応答	NPO法人がんサポートかごしま 理事長 三好 綾
12:00~13:00	(休憩)	
13:00~14:00	ワークショップ① 話したいことを整理してみよう	
14:00~15:30	ワークショップ② 自分の体験をみんなに伝える練習をしてみよう	
15:40~16:30	ワークショップ③ 自分の体験をみんなに伝えてみよう	
16:30~16:55	まとめ ~受講者の感想・今後の活動に向けて~	
16:55~17:00	閉会のあいさつ	

共 催：琉球大学医学部保健学科 成人・がん看護学，沖縄がん教育サポートセンター  
協 力：沖縄県教育庁保健体育課，NPO法人がんサポートかごしま

(4) 期日・場所：ZOOM を活用したオンライン研修

(5) 参加者：

【申込み人数】(16)名がん患者・経験者(11)名、医療従事者(3)名、患者家族(2)名

【1日目】出席者(12)名、(欠席者)(4)名：(理由)仕事、不明

【2日目】出席者(13)名、(欠席者)(3)名：(理由)仕事、不明

【サポートスタッフ】

一般社団法人全国がん患者会連合会 理事長：天野 慎介

愛媛がんサポートオレンジの会 理事長：松本 陽子

NPO 法人がんサポートかごしま 理事長：三好 綾・野田真記子

琉球大学病院がんセンター長：増田昌人(開会のあいさつ)

(6) 研修評価・課題(アンケート等より)

- ① 令和2・3年度は「がん教育総合支援事業」の一環として実施してきた本研修を今年度から外部へ移管(保健体育課は協力団体)し、外部団体と連携し研修体制の構築に向けて取り組んだ。今後も継続したがん教育外部講師養成の取り組みとして、大変貴重な一步を踏み出すことができた。
- ② 昨年まで実施してきたプログラムの内容を踏襲し、全国からがん専門の医療者や大学教授、がん教育の外部講師として経験豊富な方を講師として招聘でき、質の高い研修が開催できた。
- ③ 受講者アンケート(11名回答)  
研修会全体の評価 avg.(4.9点/5満点)、ZOOM研修方式 avg.(4.7点/5満点)  
外部講師への意欲 avg.(4.6点/5満点)、外部講師の登録の承諾(8人/11人)  
がん教育サポートセンターへの登録(10人/11人)
- ④ 「学校のがん教育の内容や、外部講師の必要性、伝えるためのわかりやすい伝え方について学べた。」「改めて講義を受けることでブラッシュアップできたように思います。」「聞き手を意識した話し言葉」の大切さ、難しさを感じています。若尾先生のお話しと引用されていた資料等を更に勉強したいと思います。」等、受講者が前向きに研修を受講している様子がうかがえ又、外部講師への登録についても積極的な回答が得られた。
- ⑤ 昨年度本研修会を受講した有志が中心となり、本県のがん対策(がん教育)に貢献できる団体である(代表：徳元亮太)が設立された。本研修会は令和5年度からは、「沖縄がん教育サポートセンター」が主団体となり開催予定である。活動のための資金面(講師の謝金・旅費・運営費等)の確保が大きな課題である。

【外部講師を活用したがん教育】

(1) 那覇市立小学校6年生(保健領域：病気の予防)

①令和5年9月27日(火)：(担任教諭・養護教諭)がんを正しく理解する

②令和5年9月30日(日)：(痰飲教諭・外部講師)がん経験者の共感的理解

(2) 授業計画

次頁参照

時	目標	知	思	態	評価規準・評価方法
1	<b>病気の起こり方</b> 【目標】病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境が関わり合って起こることについて、理解できるようにするとともに、病気の起こり方に関わる事象から課題を見付けることができるようにする。	○	○		【知識・技能】(発言・ノート) 病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境が関わり合って起こることを言ったり書いたりしている。 【思考・判断・表現】(発言・ノート) 病気の起こり方について、課題を見付け、その解決に向けて考え、それを説明したり伝え合ったりしている。
2	<b>感染症の予防</b> 【目標】病原体が主な原因となって起こる病気の予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや体の抵抗力を高めることが必要であることについて、理解することができるようにするとともに、学習したことを活用して、予防の方法を考えたり適切な方法を選んだりすることができるようにする。	○	○		【知識・技能】(発言・ノート) 感染症の予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高めること、感染症にかかったら早めに治療を受け、安静にすることで回復を早めることが必要であることを、言ったり書いたりしている。 【思考・判断・表現】(発言・ノート) 感染症の予防について、課題を見付け、その解決に向けて考え、それを説明したり伝え合ったりしている。
3	<b>生活習慣病の予防①</b> 【目標】生活行動が主な要因となって起こる病気には、心臓や脳の血管が硬くなったり詰まったりする病気があることや、その予防には、望ましい生活習慣を身につける必要があることについて、理解することができるようにするとともに、学習したことを活用して、生活習慣を予防する方法を考えることができるようにする。	○	○		【知識・技能】(発言・ノート) 心臓病や脳卒中などの生活習慣病の予防には、適切な運動を行い、栄養の偏りのない食事をとることなど、望ましい生活習慣を身につける必要があることを、言ったり書いたりしている。 【思考・判断・表現】(発言・ノート) 生活行動が主な要因となって起こる病気の予防について、学習したことを自分の生活と比べたり、関連付けたりするなどして適切な解決方法を考えている。
4	<b>がんを正しく理解する</b> ※養護教諭とのTT 【目標】がんになる仕組みやがんの主な原因、早期発見・早期治療でがんは治る可	○	○		【知識・技能】(発言・ワークシート) がんになる仕組みやがんの主な原因、早期発見・早期治療によりがんは治る可能性が高くなることなどを、言ったり書いたりしている。
	能性が高くなることについて学習することを通して、がんを正しく理解できるようにする。				【主体的な態度】(発言・ワークシート・ジャムボード) がんの原因について、タブレットや教科書、本で調べたり、わかったことをまとめたり伝えたりして、進んで学習に取り組もうとしている。
5 本 時	<b>がん経験者への共感的な理解</b> ※外部講師(がん経験者) 【目標】がんと向き合う人に対する共感的な理解を深め、自他の健康や命の大切さ、自己の生き方について進んで考えることができるようにする。		○	○	【思考・判断・表現】(発言・ワークシート・ジャムボード) 自分の大切な人や身近な人ががんになったら、どのように接したいかについて理由と一緒に考えたことをジャムボードにまとめたり、友達に説明したりできるようにする。 【主体的な態度】(発言・ワークシート・ジャムボード) がん体験者の話を聴いたり、質問したりする学習や自分の大切な人や身近な人ががんになったら、どのように接したいかについて考えたり伝えたりする学習に進んで取り組もうとしている。



6	<b>生活習慣病の予防②</b> <b>【目標】</b> 生活行動が主な要因となって起こる病気には、むし歯や歯茎の病気があることや、その予防には、望ましい生活習慣を身につける必要があることを理解できるようにするとともに、学習したことを自分の生活と比べたり関連付けたりするなどして適切な解決方法を考えることができるようにする。	○	○	<b>【知識・技能】</b> （発言・ワークシート） 生活行動が主な要因となって起こる病気の予防には、口腔の衛生を保ったりすることなど、健康によい生活習慣を身につける必要があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 <b>【思考・判断・表現】</b> （発言・ノート） 生活行動が主な要因となって起こる病気の予防について、学習したことを自分の生活と比べたり、関連付けたりするなどして適切な解決方法を考えている。
7	<b>喫煙の害と健康</b> <b>【目標】</b> 喫煙の行為は、健康を損なう原因となることを理解できるようにする。	○		<b>【知識・技能】</b> （発言・ノート） 喫煙は、呼吸や心臓のはたらきに対する負担などの影響がすぐに現れることや受動喫煙により周囲の人の健康にも影響を及ぼすことについて理解したことを言ったり書いたりしている。
8	<b>飲酒と薬物乱用の害と健康</b> <b>【目標】</b> 飲酒や薬物乱用は健康を損なう原因となることを理解できるようにする。		○	<b>【知識・技能】</b> （発言・ノート） 飲酒は、判断力が鈍る、呼吸や心臓が苦しくなるなどの影響がすぐに現れること、薬物乱用は、一回の乱用でも死に至ることがあり、乱用を続けると止められなくなり、心身の健康に深刻な影響を及ぼすことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。
9	<b>保健活動</b> <b>【目標】</b> 地域の保健に関わる様々な活動について調べたり友達に伝えたりする学習が進んでできるようにする。			<b>【主体的な態度】</b> （発言・ジャムボード・ノート） 地域の保健にかかわる様々な活動についてインターネットや教科書を使って調べたり、ジャムボードにまとめた後、友達に説明したりして学習に進んで取り組もうとしている。

(2) 那覇市立中学校（保健分野：健康な生活と病気の予防 がんとその予防）

①令和5年11月22日（火）（保健体育科教諭）

がんの疾病の概念や予防などや適切な生活習慣を身につけることが有効であることについて理解できるようにする

②令和5年12月2日（金）（保健体育科教諭・外部講師2名）

外部講師の話をとおして「がん」のリスクの軽減方法や克服をしていくための方法を考えられるようにする。

※外部講師：沖縄がん教育サポートセンターより2名（がん経験者）派遣

(3) 県立定時制高等学校（特別活動：キャリア教育）

①令和5年12月9日（金）2校時：がんの正しい知識（専門医）

①令和5年12月9日（金）3校時：がん経験者の共感的理解（がん経験者）

※外部講師：沖縄がん教育サポートセンターより2名（専門医・がん経験者）派遣

【(市民団体) 沖縄がん教育サポートセンター】

設 立 日：令和4年10月26日

代 表：徳元 亮太

登録者数：15名

【資料提供：沖縄がん教育サポートセンター】

## 沖縄県がんサポートセンターの活動内容

- がん教育外部講師の育成
- がん教育外部講師講師のリスト化と学校への派遣
- がん教育外部講師のフォローアップ研修会の実施
- 命の授業

小学校・中学校・高校へ出向き、教室ごとでの授業を中心に、自分ががんになった経験を通して、子ども達に「命の大切さ」「自分らしく生きること」についてお話しています。「子ども達のために」を合言葉に、それぞれの語り手が「がんになってから思ったこと」「周りの人への感謝の気持ち」などをまっすぐに伝えます。

## 沖縄がん教育サポートセンターの役割

- 正しいがん教育
- 命の大切さを伝える
- がん検診の受診率を上げる
- がん患者が学べる場、笑顔になる場を提供する